Osaka University Knowledge Archive

Title	業績リスト(1998)
Author(s)	
Citation	大阪大学看護学雑誌. 1999, 5(1), p. 64-76
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56712
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

業績リスト (1998)

基礎看護学講座

1.論文(原著，総説，報告書等)

1）田中結華，小笠原知枝，久米弥寿子，辻聡子，阿曽洋子，松木光子(1998). 基礎看護学校教育における実際の看護行為に関連づけた生活援助技術領域の指導法の検討. 大阪大学看護学雑誌，4(1)，6－15.

2）大谷英子，松木光子，山本裕子，小笠原知技，江川隆子，大野優子(1998). 看護診断カテゴリーの使用頻度、重要度に関する研究. 看護診断：日本看護診断学会誌，3(1)，90－99.

3）山本裕子，松木光子，大谷英子，江川隆子，小笠原知枝，大野優子(1998). NANDA 看護診断ラベルの適切性の評価. 看護診断：日本看護診断学会誌，3(1)，100－107.

4）小笠原知枝(1998). 投稿論文の書き方・その1；事例報告(症例報告)の意義. がん看護，3(3)，236－244.

5）徳山祥子，川村佐和子，数間恵子，牛込三和子，輪湖史子，大野ゆう子(1998). 在宅経気管人工換気療法の気道浄化看護に関する研究. 日本呼吸管理学会，7，213-218.

6）東村昌代，藤野博美，藤本晴美，大野ゆう子，辻聡子(1998). 甲状線疾患における術後創傷管理と看護介入の評価. 第29回日本看護学会論文集－看護総合－，35－36.

7）池内佳子，中野智津子，黒田公子，吉田正子，阿曽洋子，津村潤子，檀浦妙子(1998). 日常生活援助と診療への協力技術に対する新卒看護婦および病院指導者の評価の推移からみた看護基礎教育の検討. 看護展望，23(4)，88－96.

8）阿曽洋子，中野智津子，池内佳子，黒田公子，吉田正子，津村潤子，檀浦妙子(1998). 人間関係技術，指導・教育技術に対する新卒看護婦および病院指導者の評価の推移からみた看護基礎教育の検討. 看護展望，23(5)，89－99.

9）吉田正子，中野智津子，黒田公子，池内佳子，阿曽洋子，津村潤子，檀浦妙子(1998). 新卒看護婦の看護の姿勢に影響を及ぼす要因の分析からみた看護基礎教育および現任教育の検討. 看護展望，23(6)，80－89.

10) 阿曽洋子，藤田恵子，高鳥毛敏雄，多田羅浩三(1998). 在宅寝たきり老人の自立意欲維持に関連する要因. 厚生の指標，45(5)，10－15.

11) 中野智津子，黒田公子，池内佳子，阿曽洋子，吉田正子，津村潤子，檀浦妙子(1998). 新卒看護婦に対する職場サポートの実態および労働意欲からみた現任教育の検討. 看護展望，23(7)，86－94.

12) 池内佳子，中野智津子，黒田公子，阿曽洋子，吉田正子，津村潤子，檀捕妙子(1998). 新卒看護婦のチームワーク業務の評価の実態からみた現任教育の検討. 看護展望，23(8)，85－93.

13) 阿曽洋子，中野智津子，黒田公子，池内佳子，吉田正子，津村潤子，檀浦妙子(1998). 新卒者護婦の就職1年後と3年後の看護姿勢の変化に関連する要因の分析. 看護展望，23(9)，78－88.

14) 金岡泰子，中塚直美，日野出美紗緒，井出サユリ，西村ひとみ，水口留美子，阿曽洋子(1998). 経皮的冠状動脈形成術後の安静時間の短縮による苦痛の緩和. 看護技術，44(15)，82-88.

15) 平河勝美(1998). 生涯にわたって学び続けられる内的要因. QualityNursing，4(2)，32－37.

16) 大原美香，平河勝美，宮島朝子，近田敬子(1998). 高等学校衛生看護科卒業生の看護学士課程における学習成果―4年間の学習過程の分析から―. 兵庫県立看護大学紀要，5，75－90.

17) 平河勝美，粟田桂子，鳥居芳江，服部鏡子，多田賀津子，縄秀志，近田敬子(1998). 臨床実習指導に関する看護婦の意識の研究―困っている現象とよかったと思っている現象の意識構造の比較にみる課題―. QualityNursing，4(7)，51－58.

18) 久米弥寿子，小笠原知枝，田中結華，辻聡子，阿曽洋子，松木光子(1998). 基礎看護学における看護技術の指導法の検討-問題解決技術領域の指導法-. 大阪大学看護学雑誌，4(1)，16-26.

19) 久米弥寿子，小笠原知枝(1998). 投稿論文の書き方・その2；事例報告(症例報告)の意義. がん看護，3(3)，236-244.

20) 馬場環，山中登喜子，安藤昌代，久米弥寿子，小笠原知枝(1998). 末期がん患者の痛み管理と緩和ケアに対する妨害因子. 第29回 日本看護学会論文集，64-66.

2.単行本(著書，翻訳本)

1）小笠原知枝(1998). 対処機制とコーピング. 松木光子編，看護学概論 (pp. 88-98). 廣川書店.

2）松木光子，江本愛子，江川隆子，小笠原知枝，近田敬子，草刈淳子：共訳(1998). 看護診断／その過程と実践への応用 (pp. 189-241). 医歯薬出版.

3）阿曽洋子(1998). 看護の歴史. 松木光子編，看護学概論 (pp. 27－58). 廣川書店.

4）大野ゆう子(1998). 身体的統合規制（ホメオスタシス). 松木光子編，看護学概論 (pp. 78－87). 廣川書店.

5）大野ゆう子，松木光子 (1998). 倫理. 松木光子編，看護学概論 (pp. 209－220). 廣川書店.

3.学会発表(抄録，Proceeding)

1）Ogasawara, C., Matsuki, M., Egawa, T., Ohno, Y., Masutani, M., Yamamoto, Y., Kume, Y. (1998). Validation of Defining Characteristics of Body Image Disturbance. Classification Nursing Diagnosis：Proceedings of the 13th National Conference.

2）大野ゆう子，辻聡子，三浦早苗，笹井靖子，稲邑清也(1998).

治療法選択における評価基準の定量化に関する研究. 第18回医療情報学連合大会論文集, 706-707.
3) 大野ゆう子, 稲邑清也, 井上俊彦, 井上武宏, 門田守人, 左近賢人, 安藤邦子, 藤本春美, 坂藤昌子, 原内一, 辻聡子, 笹井靖子, 三浦早苗, 中村基子, 武田裕(1998). タイムスタディに基づく医療費原価試算の試み一第一報 病棟多職種職員および患者のタイムスタディ結果一. 第18回医療情報学連合大会論文集, 708-709.
4) 大野ゆう子, 辻聡子, 岩瀬愛子, 北澤克明(1998). 視野感度閾値検査における測定所要時間と測定値変動との関連分析.日本公衆衛生雑誌, 45(10), 180.
5) 柿澤満絵, 大野ゆう子, 辻聡子, 三浦早苗, 木下真里, 吉本菜津子, 矢野忠(1998). 多次元因子からみた高校生のライフスタイル. 日本公衆衛生雑誌, 45(10), 489.
6) 木下真里, 大野ゆう子, 辻聡子, 柿澤満絵, 舩橋舞, 三浦早苗, 吉本菜津子(1998). 看護婦と高校生におけるストレスと精神状態の比較. 日本公衆衛生雑誌, 45(10), 597.
7) 吉本菜津子, 大野ゆう子, 辻聡子, 柿澤満絵, 木下真里, 三浦早苗, 矢野忠(1998). 高校生の進路別学年別心身健康度の比較. 日本公衆衛生雑誌, 45(10), 490.
8) 藤田麻里, 矢野忠, 大野ゆう子, 辻聡子(1998). 高校生における生活環境の違いによる心身健康状態の比較. 日本公衆衛生雑誌, 45(10), 490.
9) 北村有子, 大野ゆう子, 矢野忠, 辻聡子(1998). 浮腫のアセスメントとケアー現代西洋医学と東洋医学の視点からー. 日本公衆衛生雑誌, 45(10), 235.
10) 上田康代, 大野ゆう子, 辻聡子(1998). 看護テキストにおける栄養・食事の記述と病院給食内容との比較検討. 日本公衆衛生雑誌, 45(10), 684.
11) 東村昌代, 藤野博美, 藤本春美, 大野ゆう子, 辻聡子(1998). 甲状腺疾患における術後創傷管理と看護介入の評価. 第29回日本看護学会.
12) 阿曽洋子, 中野智津子, 池内佳子, 黒田公子, 吉田正子(1998). 看護技術項目「指導・教育術」の習熟からみた看護教育の検討. 第8回日本看護学教育学会.
13) 阿曽洋子, 高鳥毛敏雄, 趙林, 中西範幸, 新庄文明, 多田羅浩三(1998). 在宅介護老人に対する保健福祉サービスの利用状況の推移. 第57回日本公衆衛生学会.
14) 上原ます子, 阿曽洋子, 杉本信子(1998). 訪問看護における褥瘡の実態とケアの課題. 第57回日本公衆衛生学会.
15) 阿曽洋子, 上原ます子, 八田かずよ, 高田喜代子(1998). 褥瘡患者に対する看護ケア(1)一病院における10年前と現在との実態比較ー. 第18回日本看護科学学会学術集会.
16) 上原ます子, 阿曽洋子, 八田かずよ(1998). 褥瘡患者に対する看護ケア(2)ー地域における予防ケアの現状と問題一. 第18回日本看護科学学会学術集会.
17) 大原美香, 近田敬子, 宮島朝子, 平河勝美(1998). 高等学校衛生看護科卒業生の学習プロセス一葛藤と自尊感情のパターン分析から一. 日本看護学教育学会第8回学術集会.
18) 馬場環, 山中登喜子, 安藤昌代, 久米弥寿子, 小笠原知枝(1998). 末期がん患者の痛み管理と緩和ケアに対する妨害因子. 第29回 日本看護学会.
19) 辻聡子, 大野ゆう子, 岩瀬愛子, 北澤克明(1998). 視野検査法別の測定時間に関する特性の比較. 日本健康科学学会誌, 14(4), 222-223.
20) 東村昌代, 藤野博美, 藤本春美, 辻聡子, 大野ゆう子(1998). 甲状腺疾患における創傷管理のフローチャート作成と看護支援の効果. 第18回日本看護科学学会学術集会講演集, 418-419.
21) 辻聡子, 大野ゆう子, 東村昌代, 藤野博美, 藤本春美(1998). 甲状腺術後創傷管理法の患者自己選択ガイドラインの検討. 第18回日本看護科学学会学術集会講演集, 416-417.
22) 岩瀬愛子, 白木玲子, 辻聡子, 大野ゆう子, 山本哲也, 北澤克明(1998). STATPAC for SITA による緑内障視野判定. 第9回日本緑内障学会.
23) 岩瀬愛子, 白木玲子, 辻聡子, 大野ゆう子, 北澤克明(1998). SITA における正常眼感度閾値の年齢変化. 第52回日本臨床眼科学会.
24) 岩瀬愛子, 白木玲子, 辻聡子, 大野ゆう子, 北澤克明(1998). SITA プログラムによる繰り返し測定の比較. 第52回日本臨床眼科学会.
25) 岩瀬愛子, 白木玲子, 辻聡子, 大野ゆう子, 北澤克明(1998). SITA プログラムにおける緑内障眼の感度閾値の変動. 日本眼科学会雑誌, 102(臨時増刊号), 158.
26) 藤田麻里, 矢野忠, 笹井靖子, 三浦早苗, 辻本朋美, 村田加奈子, 辻聡子, 大野ゆう子(1998). 東洋医学的視点から見た高校生のライフスタイル. 日本健康科学学会誌, 14(4), 226-227.
27) 笹井靖子, 大野ゆう子, 浦野友子, 樋口智子, 三浦早苗, 辻聡子, 藤田麻里, 矢野忠(1998). 高校生のライフスタイルと健康に関する因子分析を用いた検討. 日本健康科学学会誌, 14(4), 230-231.
28) 笹井靖子, 大野ゆう子, 飯沼正博, 辻聡子, 藤田麻里, 岡本芳幸, 矢野忠(1998). 未病理論に基づく自己健康チェックシステムの開発一東洋医学理論を導入した自己健康管理一. 第18回医療情報学連合大会論文集, 712-703.
29) 笹井靖子, 大野ゆう子, 辻聡子, 三浦早苗(1998). 大規模臨床調査研究における Clinical Research Coordinator(CRC)の導入と役割. 日本公衆衛生雑誌, 45(10), 164.
30) 三浦早苗, 大野ゆう子, 佐伯有香, 杉山裕美, 笹井靖子, 辻聡子, 藤田麻里, 矢野忠(1998). 高校生における心身健康状態別にみた生活習慣、生活満足度. 日本健康科学学会誌, 14(4), 228-229.
31) 三浦早苗, 大野ゆう子, 辻聡子, 吉本菜津子, 柿澤満絵, 木下真里, 矢野忠(1998). 高校生における生活習慣、生活満足度が心身の健康度に及ぼす影響. 日本公衆衛生雑誌, 45(10), 489.

4.研究助成

1）小笠原知枝(代表), 大野ゆう子, 阿曽洋子, 久米弥寿子, 辻聡子(1998). ターミナル期にあるがん患者の痛み管理とサポートケアを妨害する因子の抽出と対策. 平成10年度文部省科学研究費, 基盤研究 (C).

2）阿曽洋子(代表), 吉田光雄, 平井富弘, 小笠原知枝, 大野ゆう子, 平河勝美, 久米弥寿子, 田中結華, 辻聡子(1998). 基礎看護技術の理論化に関する研究-日常生活の援助技術に対する行動科学的分析. 平成10年度文部省科学研究費, 基盤研究(B).

3）久米弥寿子(1998). 平成9年度科学研究費補助金, 奨励研究(A).

4）辻聡子(1998). 第7回(平成10年度)社団法人照明学会[研究・教育助成金], 奨励研究, (助成期間平成10～11年度).

5）辻聡子(1998). 第16回(平成10年度)女性のためのエッソ研究奨励制度, (助成期間平成10年度).

6）辻聡子(1998). 平成10年度科学研究費補助金, 奨励研究(A), (助成期間平成10～11年度).

母性・小児看護学講座

1.論文(原著, 総説, 報告書等)

1）鈴木敦子(1998). いま質的看護研究が求められているのはなぜか. 大阪大学看護学雑誌 4(1), 1 .

2）小林美智子, 佐藤拓代, 納谷保子, 鈴木敦子(1998). 母子保健分野における子どもの虐待重症度の評価. 1997年度厚生省心身障害研究報告.

3）鈴木敦子, 楢木野裕美, 鎌田佳奈美, 堀井理司, 小山田浩子, 鈴木泰子(1998). 被虐待児のケアニーズアセスメント指標の開発とその効果測定. 平成7-9年度科学研究費助成金 (基盤研究C) 研究成果報告書, 1-73.

4）鈴木敦子(1998). わが国における子どもの虐待. 助産婦雑誌, 52(8), 9-14, 医学書院.

5）原田徳蔵(1998). 小児の薬：鎮吐薬. 小児科診療, 増刊号 61(pp. 142-144).

6）角由紀子, 黒飛俊二, 佐野哲也, 小垣滋豊, 三輪谷隆史, 三木和典, 尾崎由和, 田尻 仁, 原田徳蔵, 岡田伸太郎 (1998). 肺高血圧クリーゼに対する間欠的一酸化窒素吸入療法の経験. 日本小児科学会雑誌, 102(5), 587-591.

7）Miki, K., Harada, T., Kozaiwa, K., Tajiri, H., Nagai, T., Kawahara, H., Okada, A., Okada, S. (1998) Antroduodenal motor function and gastro-oesophageal reflux in neurologically impaired children, adolescents and young adults. (reseach letters). Eur J Pediatrics,157, 695-696.

8）Fujiwara, H., Tatsumi, K., Miki, K., Harada, T., Okada, S., Nose, O., Kodama, S., Amino, N.(1998). Recurrent T354P mutation of the Na+/I- symporter in patient with iodide transport defect. J Clin Endoclinol Metab,83(8), 2940-2943.

9）Kagitani, K., Yamamoto, T., Miki, K., Matsumoto, S., Shima, M., Tajiri, H., Harada, T., Okada, S. (1998). Hypophosphatemic rickets accompanying congenital microvillous atrophy. Journal of Bone and Mineral Reseach, 13(2),1946-1952.

10）高木洋治(1998). クロムと糖・脂質代謝. 内分泌・糖尿病科, 6(2), 129-136.

11）高木洋治(1998). 輸液剤. 消化器外科 4, 21(5), 990-991.

12）高木洋治(1998). 脂質, 生化学検査プレアルブミン, Zn, Cu. 綜合臨牀, 47, 482-489.

13）高木洋治(1998). 静注用微量元素製剤の種類と特徴. JJPEN 輸液栄養, 20, 849-857.

14）高木洋治(1998). 成人の短腸症候群. 医学のあゆみ, 186, 833-837.

15）和佐勝史, 高木洋治, 山東勤弥, 岡田正(1998). 短腸症候群におけるTPN離脱のための残存小腸の条件ー小児と成人例での検討. 腹部救急医学会雑誌, 18(8), 1093-1098.

16）高木洋治, 岡田正, 和佐勝史, 山東勤弥(1998). 在宅栄養管理とチーム医療第1回医師の視点より. 現代栄養療法のポイント, 4(2), 12-15.

17）Azuma, T., Nakai, H., Fukuzawa,M.,Wasa, M., Takagi, Y., 0kada, A. (1998). Potential canditates for small bowel transplantation : From our experience and survey of home parenteral nutrition in Japan.Transplantation Proceeding, 30, 2529－2530.

18）吉田洋, 山東勒弥, 和佐勝史, 高木洋治, 岡田正 (1998). 在宅栄養管理に用いる器具. 日本医師会雑誌, 120(9), 1163－1164.

19）吉田洋, 山東勒弥, 和佐勝史, 高木洋治, 岡田正(1998). 在宅栄養管理-経腸・経静脈栄養のマネジメント-. 日本医師会雑誌, 120(9), 1205－1208.

20）楢木野裕美(1998). 児童虐待に関する基礎的研究—青年女子の内的ワーキングモデルと女性性—. 乳幼児教育学研究 7, 47-54.

21）鎌田佳奈美, 鈴木敦子, 楢木野裕美, 鈴木泰子(1998). 被災した乳幼児の心理的ケアニーズの分析. 大阪大学看護学雑誌, 4(1), 27-34.

22）山地 建二(1998).「第1回大阪大学医学部保健学科看護学専攻助産コース夏期国際研修」を企画して. 大阪大学看護学雑誌, 4(1), 64－67.

23）Nakamura, N., Ban, T., Yamaji, K., Yoneda, Y. and Wada, Y.(1998). Localization of the Apoptosis - inducing Activity of Lupus Anticoagulant in an Annexin - binding Antibody Subset. J. Clin. Invest., 101(9), 1951-1959.

24）小山田浩子, 山地建二, 鈴木敦子, 原口範子, 軸丸清子, 米田美幸保, 池渕佳秀(1998). 思春期外来における看護の役割. 思春期学, 16(2), 214－219.

25）小山田浩子, 田間惠實子, 山地建二, 中嶋有加里, 田中春美, 鈴木敦子, 原口範子, 軸丸清子, 田原正浩, 池渕佳秀 米田美幸保(1998). 思春期外来受診者の子供時代の嗜好品に

関する研究 －現在の栄養状態との関連－. 大阪母性衛生学会雑誌, 34(1), 30－33 .
26) 宇都由美子, 田間惠實子, 林茂, 斉藤彰, 水流聡子(1998). 高度情報活用を企図した次世代の看護情報システム. 第18回医療情報学連合大会論文集, 28－32.
27) 山下芳範, 宮本正喜, 橋本則男, 入江真行, 河村徹郎, 桜井律子, 内藤道夫, 中沢一夫, 服部敏夫, 石原ヨハネ, 天野秀昭, 柳楽真佐美, 芝勝徳, 木村通男, 田間惠實子(1998). 学会場におけるネットワーク環境のためのLAN設営と問題点について. 第18回医療情報学連合大会論文集, 772－773 .
28) 山本和子, 笹川紀夫, 木村通男, 河村徹郎, 橋本則男, 田間惠實子(1998). 学会の演題受付･論文作成業務に関する研究. 医療情報学,
29) 炭原加代(1998). 人乳のトランス型不飽和脂肪酸の一考察. 母性衛生, 39(1), 54－60.
30) 森川久美子, 上田恵子, 島田友子, 松下由美子, 炭原加代, 瀧野揚三(1998). 看護学生の出産に対するイメージの変化について －2年課程・3年課程の母性看護実習前後の比較－. 大阪母性衛生学会雑誌, 34(1), 25－27.
31) 中嶋有加里, 福録恵子, 羽座典子, 細野剛良, 山地建二(1998). 妊婦の自動車運転に関する研究(第2報)－安全運転対策について－. 大阪大学看護学雑誌, 4(1), 35－39.
32) 中嶋有加里, 鏡堂美恵, 水畑喜代子, 益弘和雄, 梶本勝, 藤岡千秋, 山地建二(1998). 妊娠各期および産後1カ月の保健行動の変化. 日本健康教育学会誌, 6, 180－181.
33) 中嶋有加里, 細野剛良, 田中春美, 小山田浩子, 田間惠實子, 山地建二, 福録恵子, 大濱美香, 羽座典子(1998). 妊娠中の自動車運転が子宮収縮に及ぼす影響に関する研究. 大阪母性衛生学会雑誌, 34(1), 88－91.
34) 福録恵子, 中嶋有加里, 大濱美香, 細野剛良, 田中春美, 小山田浩子, 田間惠實子, 山地建二, 羽座 典子 (1998). マタニティ・ドライビングに関する意識調査. 大阪母性衛生学会雑誌, 34(1), 92－94.
35) 水畑喜代子, 中嶋有加里, 細野剛良, 長谷川利典, 田中春美, 小山田浩子, 田間惠實子, 山地建二, 藤岡千秋(1998). 若い両親と児を支援するための地域社会システムの基礎的研究(第4報)－育児の現状・負担感について－. 大阪母性衛生学会雑誌, 34(1), 70－73 .
36) 大濱美香, 中嶋有加里, 高柳香里, 竹内愛美, 森本恵, 細野剛良, 田中春美, 小山田浩子, 田間惠實子, 山地建二, 羽座典子(1998). 妊娠・出産に伴う腹部の変化に関する研究(第2報)－産後の腹部のたるみについて－. 大阪母性衛生学会雑誌, 34(1), 49－51.
37) 有馬志津子, 吉田恵美子, 福録恵子, 中嶋有加里, 田中春美, 小山田浩子, 田間惠實子, 山地建二(1998)看護系大学生を対象にしたキャリア発達初期段階の調査研究. 大阪母性衛生学会雑誌, 34(1), 22－24 .
38) 原口範子, 北川美千代, 今田恭子, 小山田浩子, 中嶋有加里, 山地建二, 軸丸清子, 田原正浩, 米田美幸保, 池渕佳秀(1998). 思春期外来受診者へのカウンセリングマインドアプローチ－家族看護の視点から－. 大阪母性衛生学会雑誌, 34(1), 34－37.
39) 長谷川利典, 芦田信之, 窪田英明, 北村匡正, 南江由記子, 石田英代, 田中春美, 田間惠實子(1998). パーソナルヘルスデータベース PHDB の基本設計. 第18回医療情報学連合大会論文集, 362－363.
40) 北川明, 田中春美, 田間惠實子, 窪田英明, 芦田信之, 長谷川利典(1998). 看護シソーラス辞書搭載の文献検索システム. 第18回医療情報学連合大会論文集, 544－545.

2.単行本(著書, 翻訳本)

1) 高木洋治, 山東勤弥, 和佐勝史, 吉田洋, 岡田正(1998). 高カロリー輸液. 青木継稔他編, 診断上のアクシデントインフォームド・コンセント・予防・対処(pp. 90-100). 東京：金原出版.
2) 高木洋治(1998). 栄養因子としてのバイオメタルの欠乏症. 山口正義編, バイオメタル－生体調節(pp. 205-228). 静岡：黒船出版.
3) 高木洋治, 岡田正(1998). 輸液の知識. 出月康夫編, 改訂版全科術前・術後マニュアル (pp. 40-45). 東京：照林社.
4) 高木洋治, 岡田正(1998). 術後の栄養管理. 出月康夫編, 改訂版全科術前・術後マニュアル (pp. 72-86). 東京：照林社.
5) 高木洋治, 他232名(1998). 在宅TPN(HPN). 王熊正悦, 望月英隆編, 消化器疾患－ state of arts ・ 胃・腸(pp. 222-226). 東京：医歯薬出版 (株).
6) 高木洋治(1998). 在宅静脈栄養法. 高木洋治編, エキスパートナース MOOK29 経静脈・経腸栄養マニュアル(pp. 94-99). 東京：照林社.
7) 小林美智子, 川村美和, 納谷保子, 鎌田佳奈美, 古谷悦美, 山本裕美子, 佐藤拓代, 峯川章子, 鈴木敦子, 上野昌江, 楢木野裕美. 子どもの虐待予防に向けて. 大阪児童虐待研究会.
8) 丸橋佐和子, 鎌田佳奈美, 山本裕子(1998). 腰椎椎間板ヘルニア患者の看護. ひとりで学べるナーシングプロセス (pp.297-307) . 東京：メヂカルフレンド社.
9) 藤田八千代, 村山郁子, 田間惠實子, 我部山キヨ子 編集 (1998). 臨床助産婦必携, 398. 東京：医学書院.

3.学会発表(抄録, Proceeding)

1) Harada, T. (1998). Home parenteral nutrition in intractable diarrhea of infancy. Osaka：International Symposium of Growth Factors and Nutrients.
2) Miki, K., Moore, D., Butler, R., Southcott, E., Couper, R., Davidson, G., Harada, T., Tajiri, H., Kozaiwa, K., Sawada, A. and Okada, S. (1998). The sugar permeability test reflects disease activity and extent in children and adolescents with inflammatory bowel disease. Osaka：International

Symposium of Growth Factors and Nutrients.
3）原田徳蔵(1998). 会頭講演―小児の在宅医療と保育. 第4回日本保育園保健学会.
4）原田徳蔵(1998). 小児科医からみた現代の育児像について. こども健康フェア'98 奈良.
5）原田徳蔵(1998). 小児の生活習慣病とその予防. 平成10年度柏原市学校園保健会.
6）原田徳蔵(1998). 乳幼児の栄養生理について. 平成10年度保育所保健婦看護婦研修会.
7）広田洋子, 原田徳蔵, 萩原由佳, 和佐勝史, 高木洋治, 岡田正(1998). 在宅静脈栄養施行患児とその家族のQOLに関する調査. 第45回日本小児保健学会.
8）和佐勝史, 山東勤弥, 原田徳蔵, 高木洋治, 岡田正(1998). 小児 HPN 症例における QOL の向上に関する検討. 金沢：第35回日本小児外科学会.
9）萩原由佳, 原田徳蔵, 広田洋子, 和佐勝史, 高木洋治, 岡田正(1998). 在宅静脈栄養施行患児とその家族のQOLに関する調査. 第28回大阪小児保健研究会.
10）舩橋舞, 春日部知穂, 鈴木泰子, 原田徳蔵(1998). Prader-Willi 症候群の発達・育児歴と両親の不安についての調査. 第28回大阪小児保健研究会.
11）中谷信章, 原田徳蔵, 田尻仁, 西垣敏紀, 乾幸治, 岡田伸太郎, 加藤伴親(1998). 小児期におけるβ3アドレナリン受容体遺伝子変異と肥満の関連について. 第25回日本小児栄養消化器病学会.
12）藤井史敏, 三木和典, 虫明聡太郎, 川原央好, 田尻仁, 澤田敦 多田香苗, 恵谷ゆり, 三善陽子, 近藤宏樹, 長谷川利路, 岡田正, 原田徳蔵, 岡田伸太郎(1998). ランソプラゾールが有効であった Barrett 食道を呈した逆流性食道炎の1例. 第25回日本小児栄養消化器病学会.
13）三木和典, 田尻仁, 古座岩宏輔, 澤田敦, 虫明聡太郎, 多田香苗, 恵谷ゆり, 三善陽子, 近藤宏樹, 原田徳蔵, 岡田伸太郎(1998). 小児炎症性腸疾患における腸管粘膜透過性機能の検討. 第25回日本小児栄養消化器病学会.
14）別所一彦, 藤井史敏, 虫明聡太郎, 澤田敦, 多田香苗, 三善陽子, 近藤宏樹, 三木和典, 田尻仁, 岡田伸太郎, 長谷川利路, 原田徳蔵, 中山慎一(1998). 乳児特発性胆道穿孔の1例. 第25回日本小児栄養消化器病学会.
15）山本威久, 下辻常介, 島雅昭, 中村可奈, 志水信彦, 平井治彦, 三木和典, 原田徳蔵, 岡田伸太郎(1998). 抗甲状腺剤による ANCA 陽性腎炎におけるサイトカインの役割. 第33回日本小児腎臓学会.
16）斎藤洋, 三木和典, 虫明聡太郎, 藤井史敏, 田尻仁, 澤田敦, 多田香苗, 恵谷ゆり, 三善陽子, 原田徳蔵, 岡田伸太郎(1998). 左頚部腫瘤で発症した急性化膿性甲状腺炎の1例. 第138回大阪小児科学会.
17）下野卓爾, 三木和典, 古座岩宏輔, 原田徳蔵, 三善陽子, 多田香苗, 恵谷ゆり, 澤田敦, 田尻仁, 岡田伸太郎, 佐々木隆士, 草深竹志, 福澤正洋, 岡田 正, 奥村知子(1998). 内視鏡検査が診断に有用であった不完全型膜様幽門閉鎖症. 第101回日本小児科学会.
18）田中一樹, 三木和典, 古座岩宏輔, 澤田敦, 三善陽子, 多田香苗, 恵谷ゆり, 田尻仁, 原田徳蔵, 岡田伸太郎, 川原央好, 藤川泰弘, 下辻常介(1998). 食道狭窄を伴った慢性肉芽腫症の1例. 第101回日本小児科学会.
19）三木和典, 原田徳蔵, 古座岩宏輔, 澤田敦, 三善陽子, 多田香苗, 恵谷ゆり, 田尻仁, 岡田伸太郎, 川原央好, 藤川泰弘, 下辻常介(1998). 幽門通過障害および食道狭窄を合併した慢性肉芽腫症の1例. 第28回日本小児消化管機能研究会.
20）Wasa, M., Takagi, Y., Sando, K., Harada, T., and Okada, A. (1998). Total parenteral nutrition in short bowel syndrome - adult vs pediatric. Osaka ：International Symposium of Growth Factors and Nutrients.
21）山東勤弥, 吉田洋, 和佐勝史, 北原敬子, 日吉富志帆, 垣田晴樹, 高木洋治, 岡田正(1998). Nutritional Suppport Team 確立のために. 千葉：第13回日本静脈・経腸栄養研究会.
22）Takagi, Y., Okada, A.(1998). Nutritional assessment of trace element. Beijing, China：8th Beijing International Symposium of Parenteral ad Enteral Nutrition '98(8th BISPEN '98).
23）高木洋治(1998). 微量元素の栄養的意義. 第193回大阪大学臨床栄養研究会(CNC).
24）高木洋治(1998). 微量元素の役割. 札幌：平成10年度春期病院栄養士協議会.
25）高木洋治(1998). 長期栄養管理における Pitfall. 西宮市：第4回関西経皮内視鏡的胃瘻造設術研究会.
26）高木洋治, 崔黎, 山東勤弥, 和佐勝史, 吉田洋, 岡田正, 田中晴美, 垣田晴樹, 佐藤美奈子, 中西千里, 平吹度夫(1998). 在宅静脈栄養(HPN)患者の血中マンガン(Mn)値と脳 MRI 所見, T1 値の推移. 札幌：第9回日本微量元素学会.
27）高木洋治(1998). 微量元素と栄養. 沖縄：沖縄県栄養士会健康推進研修会.
28）高木洋治(1998). 微量元素の重要性. 青森：青森県栄養士会生涯学習研修会.
29）佐藤美奈子, 上野孝, 垣田晴樹, 斎藤秀樹, 日吉富志帆, 吉田洋, 山東勤弥, 和佐勝史, 岡田正, 高木洋治(1998). 在宅中心静脈栄養法患者におけるカテーテル管理状態. 第13回在宅静脈栄養(HPN)研究会.
30）田中清美, 佐藤美奈子, 垣田晴樹, 吉田洋, 山東勤弥, 和佐勝史, 岡田正, 高木洋治(1998). 在宅中心栄養法(HPN)施行患者における微量元素の投与量と濃度の検討. 第13回在宅静脈栄養(HPN)研究会.
31）高木洋治, 岡田正, 佐藤徳太郎, 福島恒男, 城谷典保, 内山昌則, 竹山廣光, 嵩原裕夫, 溝手博義(1998). 在宅静脈(HPN)登録状況―1998年実施調査より―. 第13回在宅静脈栄養(HPN)研究会.

32) 佐藤美奈子，上野孝，垣田晴樹，斎藤秀樹，日吉富志帆，吉田洋，山東勤弥，和佐勝史，岡田正，高木洋治(1998). 在宅医療廃棄物の取扱方法の現状. 大阪：第8回近畿輸液・栄養研究会.

33) 吉田洋，山東勤弥，和佐勝史，高木洋治，岡田正，中村秀次(1998). 22年間高カロリー輸液を試行し肝不全にて死亡したクローン病の1例. 大阪：第8回近畿輸液・栄養研究会.

34) Takagi, Y., Li, Cui, Wasa, M., Sando, K., Okada, A., Hirabuki, N. (1998). Magnetic resornance imaging (MRI) findings and T1 relaxation time of the brain in relation to flood manganase (Mn) levels in patients receiving home parenteral nutrition (HPN) during on- off study of manganese. Lyon Fance：5th conference of the International Society for Trace Element Research in Human(ISTERM).

35) Takagi, Y., Okada, A., Azuma, T., Wasa, M., Sando, K.(1998). Candidates for small bowel transplantation in Japan. Osaka：International Symposium "growth factors and nutrients in intestinal health and disease".

36) Wasa, M., Takagi, Y., Sando, K., (Harada, T.,) Okada, A. (1998). Intestinal adaptation in pediatric patients with short short bowel syndrome. Graz：Southeast European Symposium of Pediatric Surgery(6),5,22-23.

37) 和佐勝史，山東勤弥，(原田徳蔵)，高木洋治，岡田正(1998). 短腸症候群の栄養管理上の問題点と遠隔成績. 神戸：日本腹部教急医学会総会(30), 2, 5-6.

38) 和佐勝史，山東勤弥，原田徳蔵，高木洋治，岡田正(1998). 小児HPN症例におけるQOLの向上に関する検討. 金沢：日本小児外科学会総会 (35), 5, 27-29.

39) 吾妻逢生　山東勤弥，和佐勝史，福澤正洋，高木洋治(1998). 腸管不全に対する腸管移植の適応について. 文京：日本外科学会総会(98), 4, 8-10.

40) 吾妻達生，長谷川利路，山東勤弥，和佐勝史，高木洋治，岡田正(1998). 腸管不全に対する腸管移植の適応について. 千代田：小腸研究会(36), 12, 5.

41) 山東勤弥，和佐勝史，高木洋治，岡田正(1998). 中心静脈カテーテル閉塞に対する水酸化ナトリウム注入による解除の試み. 神戸：日本腹部救急医学会総会(30), 3, 19-20.

42) Iiboshi, Y., Nezu,R., Takagi, Y., Okada, A.(1998).Mucous gel layer and intestinal permeability. Osaka:International Symposium"Growth Factors and Nutrients in IntestinaI Health and Disease(1),10,31-11,3.

43) 吉田洋，Chen, K.，山東勤弥，和佐勝史，高木洋治，岡田正，木曽良信 (1998). ラット小腸潰瘍モデルに対するミード酸前投与による抑制効果の検討. 泉佐野：日本外科代謝栄養学会(35), 7, 8-10.

44) 吉田洋，Chen, K.，山東勤弥，和佐勝史，高木洋治，岡田正，木曽良信 (1998). ラット小腸潰瘍モデルに対するミード酸前投与による抑制効果の検討. 新宿：日本消化吸収学会(29), 7, 11.

45) Nose, K., Chen, K., Kakita, H., Wasa, M., Takagi, Y., Kamata, S., Okada, A.(1998). Gut glutamine metabolism at various stage of sepsis in rats.Osaka:International Symposium "Growth Factors and Nutrients in International Health and Disease"(1) ,10,31-11,3

46) 野瀬恵介，Chen, K.，垣田晴樹，和佐勝史，高木洋治，鎌田振吉，岡田正(1998). ラット敗血症の各時期からみた腸管グルタミン代謝の検討. 千葉：日本静脈・経腸栄養研究会(13), 2, 5-6.

47) 野瀬恵介，Chen, K.，垣田晴樹，和佐勝史，高木洋治，鎌田振吉，岡田正(1998). ラット敗血症の各時期からみた腸管グルタミン代謝の検討. 泉佐野：日本外科代謝栄養学会(35), 7, 8-10.

48) 佐藤美奈子，吉田洋，山東勤弥，和佐勝史，高木洋治，鎌田振吉，岡田正(1998). 阪大病院における栄養管理の実際. 大坂：栄養管理技術勉強会(1), 1, 31.

49) Chen, K., Nezu,R., Wasa, M., Sando, K., Inoue, M., Iiboshi, Y., Kamata, S., Takagi, Y., Okada, A.(1998).Beneficial effects of growth hormone inflammatory bowel disease : an experimental study.Osaka : International Symposium "Growth Factors and Nutrients in Intestinal Health and Disease(1), 10, 31-11,3.

50) Khan, J., 飯干泰彦, Kai, Chen., Cui, Li., 高木洋治，岡田正 (1998). Glutamine supplementation to TPN&rat intestinal mucus. 大阪：日本静脈・経腸栄養研究会(13),2,4-6.

51) Cui, L., Takagi, Y., Wasa, M., Sando, K., 0kada, A(1998). Nitric oxide synthase inhibitor attenuates and inflammatory lesions in the skin of zinc-deficient rats. Lyon:The conference of international society for trace element research in humans(5).

52) Cui, L., Takagi, Y., Wasa, M., Sando, K., Khan, J., Okada, A. (1998).Induction of nitric oxide synthase, metal1othionein -1and interleukin-recepter-1 gene expression by IL-1 alpha challenge in zinc- deficient or zinc-adegueate rats. Osaka: Japanese Journal of Surgical Metabosim and Nutrition(35).

53) Cui, L., Takagi, Y., Wasa, M., Sando, K., Yoshida, H., Okada, A.(1998). Role of nitric oxide in intestinal damage in zinc-deficient rats. Sapporo: Japan Society for Biochemical Research on Trace Elements(9).

54) Cui, L., Takagi, Y., Wasa, M., Sando, K., Yoshida, H., Okada, A.(1998).The relation between nitric oxide and incidence of diarrhea or skin lesions by zinc deficiency in rats. Japan Surgical Society (98).

55) Cui, L., Takagi, Y., 0kada, A(1998). Role in zinc－dificient rats due to interlukin-1 alpha .U.S.-Japan Cooporative Medical Science Program.

56) Cui, L., Takagi, Y.(1998)Zinc deficiency enhances interleukin -1 alpha-induced metallothionein-1 expression in rats.

Chiba: Japanese Society for Parenteral and Enteral Nutirion(13).

57) 楢木野裕美，鈴木敦子，鎌田佳奈美：ケア経験の有無による被虐待児の入院ケアに対する看護職の認識の比較―被虐待児のアセスメントおよびケアに関する調査・―．第45回小児保健学会．

58) 楢木野裕美(1998)．母親の生育歴からみた虐待予防の育児支援の検討．日本幼児教育学会第8大会．

59) 鎌田佳奈美，楢木野裕美，鈴木敦子：ケア経験の有無による被虐待児の情報収集に対する看護職の認識の比較―被虐待児のアセスメントおよびケアに関する調査・―．第45回小児保健学会．

60) 細野剛良，山地建二(1998)．ラット体温調節系に対するプロゲステロンの効果．仙台市：第50回 日本産科婦人科学会．

61) 田間惠實子(1998)．情報システムは看護を如何に支えるか．大阪市：第103回 医療情報システム研究会．

62) 北川明，田村真美，三宅和美，田間惠實子，伊藤幸子(1998)．シソーラス辞書を内蔵した論文検索プログラムの試作．東京：第14回 看護情報システム研究会．

63) 炭原加代(1998)．人乳のトランス型不飽和脂肪酸に影響を及ぼす食品 ―病院給食と市販マーガリンについて―．東京：第12回 日本助産学会学術集会．

64) 炭原加代，田中春美，中嶋有加里，田間惠實子，山地建二(1998)．母乳のトランス型不飽和脂肪酸に影響する食品 ―市販マーガリンについて―．前橋市：第39回 日本母性衛生学会．

65) 中嶋有加里，山地建二(1998)．第1回大阪大学医学部保健学科看護学専攻助産コース夏期国際研修について．吹田市：第16回 日本国際保健医療学会関西地方会．

66) 中嶋有加里，山地建二(1998)．インドシナ母子保健看護コース(JICA)の自己評価 ―Cambodia，Laos，Vietnamからの研修員による評価―．吹田市：第13回 日本国際保健医療学会．

67) Nakajima, Y. (1998). Induction of uterine contractions by car driving during pregnancy. Tokyo: 3rd International Nursing Research Conference.

68) 水畑喜代子，中嶋有加里，羽座典子，細野剛良，長谷川利典，田中春美，炭原加代，田間惠實子，藤岡千秋，山地建二(1998)．若い両親と児を支援するための地域社会システムの基礎的研究（第5報）―乳児をもつ母親の意識調査の地域による比較―．前橋市：第39回 日本母性衛生学会．

69) 中嶋有加里，羽座典子，岩田朋美，岩渕美幸，細野剛良，田中春美，炭原加代，田間惠實子，村田雄二，山地建二(1998)．妊娠中の自動車運転が子宮収縮に及ぼす影響に関する研究（第2報）―自動車運転中のCTGによる子宮収縮モニタリング―．前橋市：第39回 日本母性衛生学会．

70) 白井文恵，川口真紀子，中嶋有加里，山地建二，土肥義胤(1998)．排卵期の末梢白血球の活性酵素量の上昇．前橋市：第39回 日本母性衛生学会．

71) Nakajima, Y., Mizuhata, K., Hosono, T., Yamaji, K. (1998). Maternal and child health nursing course for the countries of Indochina. Pattaya, Thailand：2nd International Conference on Expanding Boundaries of Nursing Education Globally.

4.研究助成

1）松井一郎(代表)，小林道子，納谷保子，鈴木敦子(1998)．母子保健における養育問題事例への援助実態．厚生省心身障害研究．

2）鈴木敦子(代表)，楢木野裕美，鎌田佳奈美，田中春美，上野昌江(1998)．養育不全の母親のタイプの解明と彼ら及びその子どもが必要としている質的ケアの探究．文部省科学研究費，基盤研究(B)．

3）蝦名美智子(代表)，片田範子，鈴木敦子，筒井真優美，村田恵子，中野綾美，才木クレイグビル滋子，飯村直子，込山洋美，勝田仁美，楢木野裕美，二宮啓子，半田浩美(1998)．検査・手術を受ける子どもへのインフォームドコンセント―看護の実態とケアモデルの構築―．文部省科学研究費，基盤研究(B)．

4）鈴木敦子(代表)，楢木野裕美，鎌田佳奈美(1998)．入院児の遊びの状況とエデュテイメント的視点からの遊びの提供．中山隼雄科学技術文化財団研究助成金．

5）原田徳蔵，三木和典，巽圭太(1998)．「高ＴＳＨ血症―持続型」患児の病因・病態の解析についての研究．第3回 Novo Nordisk Growth 賞．

6）高木洋治(代表)，岡田正，山東勒弥，平吹度夫(1998)．新たな生体内マンガン指標；脳MRI所見，T1値と血中Mn濃度の関連について．文部省科学研究費，基盤研究(B)．

7）山地建二(代表)，村田雄二，大森正昭，中嶋有加里(1998)．妊婦の自動車運転の安全性に関する総合的研究．文部省科学研究費，萌芽的研究．

8）中嶋有加里（1998）．産後の母性健康支援システムの構築．文部省科学研究費，奨励研究(A)．

9）鈴木泰子（1998）．病気の子どもと家族におけるケアリングの意味，文部省科学研究費．奨励研究（A）．

成人・老人看護学講座

1.論文(原著，総説，報告書等)

1）Quan, C.P., Watanabe, S., Forestier, F., and Bouvet, J. P. (1998). Human amniotic IgA inhibits natural IgG autoantibodies of maternal or unrelated origin. Eur. J. Immunol, 28(12),1-9.

2）高橋章子(1998)．地震災害の急性期における救急看護．看護研究，31(4)，37-47.

3）高橋章子(1998)．ドレーン挿入中の患者の看護．Expert Nurse，14(6)，131-137.

4）江川隆子(1998)．看護過程における批判的思考のトレーニング．教務と臨床指導者，11(1)，36-42.

5）荻野敏(1998)．アスピリン喘息におけるアスピリン鼻誘発

試験. 耳鼻, 44, 19－23.
6）荻野敏, 原田保, 坂口喜清, 柳英博, 丹生真理子, 仙波治, 入船盛弘, 田矢直三, 野入輝久, 坂本邦彦, 荻野 仁(1998). 耳鳴に対する牛車腎気丸の効果. 耳鼻臨床, 91, 199－204.
7）丹生真理子, 坂口喜清, 有本啓恵, 入船盛弘, 荻野敏(1998). アトピー性皮膚炎患者の鼻アレルギー. アレルギーの臨床, 18, 723－726.
8）馬場謙治, 松田かおり, 高田佳恵, 荻野敏(1998). 鼻腔抵抗にあたえる体位変換、運動の影響. 市立堺病院医学雑誌, 1, 2－6.
9）荻野敏, 仙波治, 福田和泰, 橋本典子, 嶽良博, 榎本雅夫(1998). アレルギー性鼻炎に対するR－8703の有効性および安全性の検討. 新薬と臨床, 47, 1824－1838.
10) 荻野敏, 北村健, 中川伸弘, 岩倉進, 坂口喜清, 丹生真理子, 入船盛弘, 後藤啓恵, 原田保(1998). アレルギー性鼻炎における薬物治療の有効性判定に対する一検討-ペミロラストカリウム（アレギサール）を用いて. 耳鼻, 44, 815－825.
11) 丹生真理子, 坂口喜清, 有本啓恵, 入船盛弘, 荻野敏(1998). アトピー性皮膚炎における鼻アレルギー症状の検討. 日鼻誌, 37, 56－60.
12) 荻野敏(1998). アレルギー性鼻炎. 綜合臨床, 47, 477－480.
13) 瀬尾律, 穂永美恵子, 荻野敏, 瀬尾囁(1998). アレルギー疾患の疫学的検討－小学校における喘息の有病率. 兵庫県医師会医学雑誌, 41(2), 52－57.
14) Maeda, K., Tanaka, T., Katada, Y., Horii, A., Nose, K., Ochi, H., Ogino, S., Suemura, M., Kishimoto, S., Igarashi, T. (1998). Bronchial and nasal responsiveness in atopic asthma and allergic rhinitis patients : Relationship of local responsiveness to cytokine production by peripheral blood mononuclear cells. Allergology International, 47,45-51.
15) Ogino, S., Irifune, M., Arimoto, H., Baba, K., Sakaguchi, Y., Nibu, M. (1998). QOL in Japanese－Cedar pollinosis. Quality of Life Research,7, 645－646.
16) 真壁玲子(1998). 米国における癌化学療法－看護の現状. 消化器外科 Nursing, 13(3), 307-311.
17) 真壁玲子(1998). 抗悪性腫瘍剤の安全な取り扱い方. エキスパートナース, 14(7), 18-21.
18) 真壁玲子(1998). Interpersonal Relationship Inventory: 日本語版の作成過程. 看護研究, 31(5), 423-432.
19) 真壁玲子(1998). 乳がん体験者のソーシャル・サポートと精神的・身体的状況との関連. 日本がん看護学会誌, 12(1), 11-27.
20) 國生拓子(1998). 看護における精神的援助技術. こころの看護学, 2(1), 7-11.
21) 國生拓子(1998). 治療環境について考える. こころの看護学, 2(4), 341-342.
22) 大谷英子, 松木光子, 山本裕子, 小笠原知枝, 江川隆子, 大野ゆう子(1998). 看護診断カテゴリーの「使用頻度」「重要度」に関する研究. 看護診断, 3(1), 90-99.
23) 山本裕子, 松木光子, 大谷英子, 江川隆子, 小笠原知枝, 大野ゆう子(1998). NANDA 看護診断ラベルの適切性の評価. 看護診断 3(1), 100-107.
24) 山本裕子, 江川隆子(1998). 慢性腎不全患者の看護の展開(透析療法を受ける患者). クリニカルスタディ, 19(6), 54-59.
25) 丸橋佐和子, 鎌田佳奈美, 山本裕子(1998). 腰椎椎間板ヘルニア患者の看護の展開. クリニカルスタディ, 19(6), 84-89.
26) 山本裕子(1998). 活動耐性低下そのアセスメント. 看護技術 44(9), 14-21.
27) 吉谷優子(1998). 精神科リハビリテーションにおける援助. 大阪大学看護学雑誌, 4(1), 40-46.
28) 今井雪香, 片岡万里, 柳田泰義(1998). 老人イメージに関する調査(2)-看護大学生と一般大学生との比較-. 神戸大学発達科学部研究紀要, 6(1), 225-233.
29) Kataoka, M., Ihara,K., Imai,Y., Wada, E., Uehara,J., and Genda,K.(1998). Questionnair Survey of Life Style and Health Conditions Among Leprosariom Patients:One Year After the Abolition of the Leprosy Prevention Law.Bulletin of Health Sciences kobe,14,101-109.

2.単行本(著書, 翻訳本)

1）高橋章子編集(1998). 救急患者の観察・アセスメント・対応. メディカ出版.
2）高木永子, 松木光子, 池邉敏子, 石川ふみよ, 宇佐美しおり, 江川隆子, 恵美須文恵, 大西和子, 大森美津子, 小田正枝, 鹿島友義, 神部博, 柴田恭亮, 福山なおみ, 安藤史子(1998). 選択、別法の選択に関する人間の反応パターン, 臨床に活かす看護診断 (pp. 202-217). 学習研究社.
3）江川隆子, 楠瀬伴子, 阿部雅子, 桜井陽子, 北村隆子, 大井潤子, 百瀬千尋, 松永彌生, 山本公子, 松田好美, 藤崎郁, 頼田奈津子, 西川悦子, 長田玉枝, 成田伸, 大谷利江, 坂東永実子, 立岡和美, 山田佐登実, 佐金鈴子, 石橋美年子, 福田久子, 高橋栄子(1998). 看護のためのデータベース作成へのヒント. 看護診断実践事例集(pp. 6-14)日総研出版.
4）荻野敏(1998). いわゆるアスピリン過敏症における鼻病変. 奥田稔, 今野昭義編, アレルギー性鼻炎, 最近のトピックス一耳鼻科から他科へ(pp. 23－28).大阪：メディカルレビュー社.
5）山本裕子(1998). 糖尿病網膜症-看護の展開. 高久史磨, 大國真彦, 森岡恭彦, 坂元正一監修, 臨床看護事典第2版(pp. 1499-1502). メヂカルフレンド社.
6) 丸橋佐和子, 鎌田佳奈美, 山本裕子(1998). 腰椎椎間板ヘルニア患者の看護. メヂカルフレンド社編, クリニカルス

タディブック３　ひとりで学べるナーシングプロセス　成人・老人看護①(pp297-307). メヂカルフレンド社.

3.学会発表(抄録, Proceeding)

1）Takahashi. A., Terashi. S., Kawamura. Y., Nagao. K., Iwakiri. M.,Hirotune. H., Ohta. M. (1998).Analitic Study of Real Activities of Nurses Performed in Affected Hospitals at Hanshin-Awaji Earthquake Disaster .The 4th Asia-Pacific Conference on Disaster Medicine.

2）高橋章子(1998). 看護観察における深部体温較差の意義. 日本救急医学会第２６回学術集会.

3）Egawa, T., Matsuki, M., Yamamoto, Y., Otani, E., Ogasawara, C., Ohno, Y. (1998). To examine content validity of the Defining Characteristics of Activity Intolerance, 13th national conference on Nursing Diagnosis.

4）荻野敏(1998).花粉症の診断と治療. 横浜：第３回神奈川アレルギーセミナー.

5）荻野敏(1998).花粉症の診断と治療. 佐賀：第６回佐賀県アレルギー講習会.

6）荻野敏(1998). あなたは、アレルギーを知っていますか. 大阪：第12回日本視覚障害ヘルスキーパーセミナー.

7) Ogino, S., Irifune, M., Arimoto, H., Baba, K., Sakaguchi, Y., Nibu, M. (1998). QOL in Japanese－cedar pollinosis. Baltimore : 5th Annual Conferance of the International Sociaty for Quality of Life Reseach.

8）杉山枝里花, 城戸良弘, 升谷英子, 矢野雅彦, 辻仲利政, 塩崎均, 門田守人(1998). 心拍数を用いたエネルギー消費量推定についての検討. 第８回近畿輸液・栄養研究会.

9）Makabe, R. (1998). The relationship of social support, psychological, and physical states among Japanese women with breast cancer. The 3rd International Nursing Research Conference.

10) Kokusho, H .(1998).Identifying Effective Nursing Care for Chronic Psychiatric Inpatients Comparative Study Among Chronic .Acute and Forensic Patients. Honolulu, Hawaii：Unleashing the Power of Diversity Through Nursing Research.

11) Otani, E., Matsuki, M., Yamamoto, Y., Ogasawara, C., Egawa, T., Ohno, Y. (1998).The Frequency and Importance for NANDA'S Nursing Diagnoses in Japan. 13th national conference on Nursing Diagnosis.

12) Ogasawara, C., Matsuki, M., Otani, E., Yamamoto, Y., Egawa, T.,Ohno, Y., Kume, Y. (1998). Validation of the Defining Characteristics of Body Image Disturbance. Classification of Nursing Diagnosis: 13th national conference on Nursing Diagnosis.

13) Yamamoto, Y., Matsuki, M., Otani, E., Egawa,T, Ogasawara, C, Ohno,Y. (1998). The Relevancy for NANDA's Nursing Diagnoses in Japan.13th national conference on Nursing Diagnosis.

14) 黒川雅代子, 寺師栄, 下村朋子, 河村葉子, 高橋章子, 他(1998). 交通事故患者の追跡調査から患者指導の在り方を考える. 日本救急医学会第２６回学術集会.

15) 丸橋佐和子, 河村葉子, 升谷英子, 石本章子, 城戸良弘, 酒井明子, 高山成子, 森田敏子, 宮本裕子(1998). 老人看護教育方法の開発に関する研究－装具による疑似体験を導入した学習方法の検討１. 日本老年看護学会第３回学術集会.

16) 片岡万里, 今井雪香, 和田恵美子, 千葉桂子, 玄田公子(1998). ハンセン病療養所入所者の生活に関する調査、日本看護研究学会雑誌, 21(3), 349. (第24回日本看護研究学会学術集会).

17) 朝井めぐみ, 河村葉子, 高橋章子(1998). 脳死臓器移植に対する看護婦の意識調査. 日本救急医学会第２６回学術)会.

4.研究助成

1）江川隆子, 荻野敏, 山本裕子, 花房俊昭, 今井雪香(1998). 糖尿病性神経・血管合併症に関する新しい看護診断の指標とその開発. 科学研究費補助金, 基盤研究(C)(2).

2）升谷(大谷)英子(1998). 食道癌術後患者のＱＯＬに関する検討. 文部省科学研究費, 奨励研究 (A).

3）山本裕子(1998). 糖尿病性合併症を有する患者のＱＯＬに関する研究－糖尿病性腎症保存療法期にある患者の自己管理に焦点を当ててー. 文部省科学研究費, 奨励研究(A).

地域看護学講座

1.論文（原著, 総説, 報告書等）

1) Shirakawa, T., Hayakawa, K., Jeffery, K. (1998). Association of lifestyle with high risk of hyperimmunity and immunosupression mediated by IgE. J of Clinical Epidemiology, 49(9), 1059-1065.

2）早川和生, 清水忠彦(1998). 双子老人 2,500 組におけるイフスタイル及び遊び行動の比較からみた精神老化と痴の予防に関する実証的研究. 中山科学技術文化財団研究成報告書, 18-25.

3）早川和生, 清水忠彦(1998). 双子老人の生活環境の比較らみた精神老化・痴呆の危険因子の研究. 文部省科学研費基盤(B)研究成果報告書.

4）早川和生(1998). 多胎児のファミリーケア及び家族支援システムに関する開拓的研究. 三菱財団研究事業報告書, 9(1), 332-333.

5）Nishitani, H., Okabayashi, M., Satomi, M., Shimoyama, T. and Dohi, Y. (1998). Infiltration of Peroxidase-producing Eosinophils into the Lamina Propria of Patients with Ulcerative Colitis. J.Gastroenterology, 33,189-195.

6）土肥義胤, 白井文恵(1998). 日和見感染を起こす細菌の白血球内における殺菌抵抗性. 乳酸菌研究会に関する報告書,

411-417.

7) Zhu, DN., Moriguchi, A., Mikami, H., Higaki, J. and Ogihara, T. (1998). Central amino acids mediate cardiovascular response to angiotensin II in the rat. Brain Research Bulletin,45(2),189-197.

8) Masuo, K., Mikami, H., Ogihara, T. and Tuck, ML. (1998). Familial hypertension, insulin, sympathetic activity, and blood pressure elevation. Hypertension,32,96-100.

9) 荻原俊男, 三上洋(1998). 老年者疾患とQOL. Gerontology, 10(1), 45-52.

10) 三上洋(1998). 降圧療法におけるQOL評価の意義. 臨床医, 24(2), 228-230.

11) 三上洋, 荻原俊男(1998). 降圧療法のメガトライアル：現状と展望. 循環器科, 43(6), 510-517.

12) 三上洋(1998). 臓器保護からみた血圧管理基準－HOT研究成績からの教訓. 血圧 5(6), 621-627.

13) 三上洋(1998). QOLと高血圧治療. Pharma Medica, 16(7), 59-63.

14) 三上洋(1998). 高血圧とQOL. Current Hypertension, 3(2), 3-6.

15) 三上洋(1998). 高齢者の至適降圧薬選択. 血圧, 5(10), 1069-1075.

16) 伊藤美樹子, 山崎喜比古, 福田正人, 鈴木一郎, 小国弘量(1998). てんかんをもつ人の「てんかんであること」に伴う経験の質的分析—病気を匿すことを中心に—. 日本保健医療社会学論集, 9, 30-43.

17) 伊藤美樹子(1998). 「てんかんであること」への対処パターンが主観的ウェルビーイングに及ぼす影響に関する研究. (博士論文)東京大学大学院.

18) (薬害HIV感染被害調査研究委員会) 山崎喜比古, 若林チヒロ, 片山千栄, 吉井清子, 丸山由香, 関由起子, 木村知香子, 井上洋士, 杉原陽子, 小澤温, 伊藤美樹子, 大島巌および当事者側委員(1998). 非加熱血液製剤によるHIV感染被害者の健康・医療・生活・福祉に関する総合基礎調査報告. はばたき福祉事業団.

2.単行本(著書, 翻訳本)

1) 早川和生(1998). ふたごの心理学, 多胎児家族のための子育てハンドブック. ビネバル出版.

2) 早川和生(1998). 介護福祉士国家試験14科目完全対策. 一橋出版.

3) 土肥義胤(1998). 感染対策 第2章. 医用安全管理学 第4巻 放射線安全管理学 医用放射線科学講座(pp. 174-179). 医歯薬出版.

4) 三上洋(1998). 降圧薬治療とQOL. 岩尾, 檜垣, 木村, 桑島, 島本編, 高血圧年報1998 Review&Topics(pp. 103-109). 東京：先端医学社.

3.学会発表(抄録, Proceeding)

1) 早川和生(1998). 多胎児を産み育てる家族に対する支援を考える. 岐阜：第57回日本公衆衛生学会.

2) 加藤憲司, 早川和生(1998). 成人双生児における食品摂取及び嗜好性に関する同胞間比較. 山梨：日本双生児研究学会.

3) 小松明日香, 早川和生(1998). 女子高校生・女子大学生の摂食行動とボディイメージの実態調査. 岐阜：第57回日本公衆衛生学会.

4) 浅見恵梨子, 前幸子, 早川和生(1998). 双生児の出産前教育における同時授乳指導の効果. 第20回全国地域保健婦学術集会.

5) Masuo, K., Mikami, H., Ogihara, T. and Tuck, ML. (1998). Different blood pressure regulatory mechanisms between obesity and hypertension. New York :13th Scientific Meeting of American Society of Hypertension.

6) Masuo, K., Mikami, H., Ogihara, T. and Tuck, ML. (1998). Obesity, sympathetic hyperactivity, insulin resistance and hyperleptinemia are related with blood pressure level. New York :13th Scientific Meeting of American Society of Hypertension.

7) Masuo, K., Mikami, H., Ogihara, T. and Tuck, ML. (1998). Changes in body mass index and BP levels in a Japanese male population in a longitudinal study of one year. New York :13th Scientific Meeting of American Society of Hypertension.

8) Moriguchi, A., Zhu, DN., Mikami, H., Morishita, R., Higaki, H. and Ogihara, T. (1998). Central amino acids mediate cardiovascular response to angiotensin II in the rat. Amsterdam :17th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension.

9) Masuo, K., Mikami, H., Itoh, M., Ogihara, T. and Tuck,ML. (1998). Obesity and blood pressure levels in normotensive subjects in a longitudinal study. Amsterdam :17th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension.

10) Masuo, K., Mikami, H., Itoh, M., Ogihara, T. and Tuck, ML. (1998). Sympathetic hyperactivity and hyperinsulinemia are related with hyperleptinemia and hypertension in a Japanese population. Amsterdam :17th Scientific Meeting of theInternational Society of Hypertension.

11) 舛尾和子, 三上洋, 荻原俊男(1998). 正常血圧者における肥満による血圧上昇機序. 東京：第62回日本循環器学会.

12) 舛尾和子, 三上洋, 荻原俊男(1998). 肥満者の血圧上昇には交感神経活動性の亢進が関与する. 東京：第62回日本循環器学会.

13) 左川祐子, 伊藤美樹子, 三上洋(1998). 高校生における摂食障害とその関連要因に関する探索的研究. 第7回日本健康教育学会, 埼玉：日本女子栄養大学.

14) 舛尾和子, 三上洋, 伊藤美樹子, 荻原俊男(1998). 血中レ

プチン濃度，Body Mass Index と血圧値との関係-若年群と老年群の比較．福岡：第40回日本老年医学会．
15) 舛尾和子，三上洋，荻原俊男(1998)．慢性腎不全患者における血漿レプチン値と血圧値，Body Mass Index との関連．奈良：第28回日本腎臓学会西部学術大会．
16) 舛尾和子，三上洋，伊藤美樹子，荻原俊男(1998)．体重増加に伴う血圧上昇には非肥満者，肥満者とも血漿レプチン値増加に伴う交感神経活動性の過剰反応が早期より関与．京都：第10回血圧管理研究会．
17) 粟屋豊，伊藤美樹子，山田寿美子(1998)．てんかん患者の入浴時の事故実態調査．神奈川：第32回日本てんかん学会．
18) 山崎喜比古，若林チヒロ，片山千栄，杉原陽子，吉井清子，丸山由香，関由起子，木村知香子，井上洋士，伊藤美樹子，小澤温，大島巌(1998)．非加熱血液製剤による HIV 感染者に関する総合基礎調査(第1報)―参加型リサーチと調査概要―．岐阜：第57回日本公衆衛生学会．
19) 木村知香子，山崎喜比古，若林チヒロ，片山千栄，杉原陽子，吉井清子，丸山由香，関由起子，井上洋士，伊藤美樹子，小澤温，大島巌(1998)．非加熱血液製剤による HIV 感染者の医療と福祉に関する総合基礎調査(第2報)―就労・就学・福祉・家計の状況―．岐阜：第57回日本公衆衛生学会．
20) 若林チヒロ，山崎喜比古，片山千栄，杉原陽子，吉井清子，丸山由香，関由起子，木村知香子，井上洋士，伊藤美樹子，小澤温，大島巌(1998)．非加熱血液製剤による HIV 感染者の医療と福祉に関する総合基礎調査(第3報)―社会や周りの人々との関係―．岐阜：第57回日本公衆衛生学会．
21) 井上洋士，山崎喜比古，若林チヒロ，片山千栄，杉原陽子，吉井清子，丸山由香，関由起子，木村知香子，伊藤美樹子，小澤温，大島巌(1998)．非加熱血液製剤による HIV 感染者に関する総合基礎調査(第4報)―健康状態と健康管理状況―．岐阜：第57回日本公衆衛生学会．
22) 関由起子，山崎喜比古，若林チヒロ，片山千栄，杉原陽子，吉井清子，丸山由香，木村知香子，井上洋士，伊藤美樹子，小澤温，大島巌(1998)．非加熱血液製剤による HIV 感染者に関する総合基礎調査(第5報)―告知と医師患者関係―．岐阜：第57回日本公衆衛生学会．
23) 片山千栄，山崎喜比古，若林チヒロ，杉原陽子，丸山由香，吉井清子，関由起子，木村知香子，井上洋士，伊藤美樹子，小澤温，大島巌，瀬戸信一郎(1998)．非加熱血液製剤による HIV 感染者の医療と福祉に関する総合基礎調査(第1報)―対象と方法，および対象者の概要―．東京：第12回日本エイズ学会．
24) 若林チヒロ，山崎喜比古，杉原陽子，片山千栄，吉井清子，丸山由香，関由起子，木村知香子，井上洋士，伊藤美樹子，小澤温，大島巌，瀬戸信一郎(1998)．非加熱血液製剤による HIV 感染者の医療と福祉に関する総合基礎調査(第2報)―受診・入院状況―．東京：第12回日本エイズ学会．
25) 井上洋士，山崎喜比古，若林チヒロ，杉原陽子，片山千栄，丸山由香，吉井清子，関由起子，木村知香子，伊藤美樹子，小澤温，大島巌，瀬戸信一郎(1998)．非加熱血液製剤による HIV 感染者の医療と福祉に関する総合基礎調査(第3報)―受療(検査・治療)状況―．東京：第12回日本エイズ学会．
26) 吉井清子，山崎喜比古，若林チヒロ，片山千栄，杉原陽子，丸山由香，関由起子，木村知香子，井上洋士，伊藤美樹子，小澤温，大島巌，瀬戸信一郎(1998)．非加熱血液製剤による HIV 感染者の医療と福祉に関する総合基礎調査(第4報)―身体症状，精神健康，健康管理行動の現状―．東京：第12回日本エイズ学会．
27) 関由起子，山崎喜比古，若林チヒロ，片山千栄，杉原陽子，丸山由香，吉井清子，木村知香子，井上洋士，伊藤美樹子，小澤温，大島巌，瀬戸信一郎(1998)．非加熱血液製剤による HIV 感染者の医療と福祉に関する総合基礎調査(第5報)―HIV 陽性告知について―．東京：第12回日本エイズ学会．
28) 木村知香子，山崎喜比古，若林チヒロ，片山千栄，杉原陽子，丸山由香，吉井清子，関由起子，井上洋士，伊藤美樹子，小澤温，大島巌，瀬戸信一郎(1998)．非加熱血液製剤による HIV 感染者の医療と福祉に関する総合基礎調査(第6報)―就労・就学・社会参加状況について―．東京：第12回日本エイズ学会．
29) 丸山由香，山崎喜比古，若林チヒロ，片山千栄，杉原陽子，吉井清子，関由起子，木村知香子，井上洋士，伊藤美樹子，小澤温，大島巌，瀬戸信一郎(1998)．非加熱血液製剤による HIV 感染者の医療と福祉に関する総合基礎調査(第7報)―生活と偏見・差別―．東京：第12回日本エイズ学会．
30) 杉原陽子，山崎喜比古，若林チヒロ，片山千栄，丸山由香，吉井清子，関由起子，木村知香子，井上洋士，伊藤美樹子，小澤温，大島巌，瀬戸信一郎(1998)．非加熱血液製剤による HIV 感染者の医療と福祉に関する総合基礎調査(第8報)―ソーシャルサポート・ネットワーク―．東京：第12回日本エイズ学会．
31) 山崎喜比古，若林チヒロ，片山千栄，杉原陽子，丸山由香，吉井清子，関由起子，木村知香子，井上洋士，伊藤美樹子，小澤温，大島巌，瀬戸信一郎(1998)．非加熱血液製剤による HIV 感染者の医療と福祉に関する総合基礎調査(第9報)―薬害 HIV 感染者の薬害観とストレス対処能力 SOC の保持状況―．東京：第12回日本エイズ学会．
32) 白井文恵，村上明日香，土肥義胤(1998)．末梢血単球及び好中球の Compromized State と過酸化水素産生量との関係について．松本：日本細菌学雑誌，53(1)，124.
33) Shirai, F., Nishida, E., Kawaguchi, M., Dohi, Y. (1998). Growth and survival of opportunistic pathogens within blood neutrophils in aged persons. Firenze : 6th Intern. Expert Forum on Immunotherapy and Gene Therapy, 86.
34) Shirai, F., Kawaguchi, M., Murakami, A., Dohi, Y.(1998). Low production of hydrogen peroxide and superoxide by blood neutrophils of aged persons. Firenze:6th Intern.

Expert Forum on Immunotherapy and Gene Therapy, 87.
35) 白井文恵，川口真紀子，土肥義胤(1998). 老人の易感染性の原因について. 弘前：日本看護研究学会雑誌，21(3), 312.
36) 白井文恵，川口真紀子，大原重和，土肥義胤(1998). 高齢者の好中球の活性酸素産生低下と緑膿菌の細胞内増殖. 伊香保：第13回活性酸素・フリーラジカルに関する研究会一般演題抄録集，4.
37) 白井文恵，川口真紀子，中嶋有加里，山地建二，土肥義胤 (1998). 排卵期の末梢血白血球の活性酸素産生量の上昇. 前橋：母性衛生，39(3), 160.
38) Shirai, F., Kawaguchi, M., Nagata, k., Ohara, S., Dohi, Y. (1998). Low resistance of neutrophils of the aged persons against opportunistic pathogens. New Delhi:10th International Congress of Immunology, 326.
39) 白井香苗，沢田秋，伊藤美樹子，三上洋(1998). 都市近郊農村N町における高齢者の健康・生活について. 東京：第1回日本地域看護学会講演集，69.

4.研究助成

1）早川和生(代表)，清水忠彦(1998). 双子老人2,500組の比較からみた加齢現象に関与する生活習慣、環境要因の研究. 文部省科学研究費，基盤研究(B)(2).
2）早川和生(代表)，松田理恵(1998). 乳幼児期におけるTwin-talk (宇宙語)現象の発生機序とファミリーケアの研究. 文部省科学研究費，萌芽的研究.
3）森本兼曇(代表)，早川和生，竹下達也(1998). 健康指標の開発とその評価に関する予防医学的研究. 文部省科学研究費，基盤(A).
4）三上洋（代表），楽木宏実，守口　篤(1998). 脳内レニン-アンジオテンシン系亢進高血圧モデルにおける神経伝達物質の動態解明. 文部省科学研究費，基盤研究(C)一般.
5）伊藤美樹子(1998). てんかん児の親の病気観・人生観と児への生活調整に関する研究. 文部省科学研究費，奨励研究(A).
6）松田理恵(1998). 中小企業に働く海外派遣労働者の心身のストレスとそれに対する保健指導に関する研究. 文部省科学研究費，奨励研究A.

病院看護部

誌上発表

1) 原口範子(1998). 思春期外来受診者へのカウンセリングマンドアプローチー家族看護の視点からー. 大阪母性衛生学会雑誌，7.
2) 軸丸清子，原口範子(1998). 思春期外来における看護の役割. 思春期学別冊，16 (2)，214～219.
3) 中山秀子，越智利江，飯田妙，菊池素子(1998). 退院後の腎提供者（ドナー）の心理と今後の看護援助. 今日の移植，11(5).
4) 鍋谷佳子(1998). 欧州における Link Nurse の役割と日本におけるあり方. クリニックマガジン，5.
5) 鍋谷佳子(1998). PPPD術後下痢をきたした患者の看護. 月刊ナーシング，5.
6) 鍋谷佳子(1998). 胃癌　看護の展開. 臨床看護学事典，第2版，60～64.
7) 鍋谷佳子(1998). 外国の病院に学ぶ院内感染対策イギリスにおける Link Nurse の役割. 日本環境感染学会誌，13 (4).
8) 東村昌代，藤野博美，藤本春美(1997). 甲状腺疾患術後創における肥厚型瘢痕予防に有効なバリア療法について. 笹川財団法人看護職員報告書，5.
9) 澤口裕紀子，堀井菜緒子，團寛子，山下悦子(1998). 退院に不安を訴える老人患者の援助. 整形外科看護，3，(5).
10) 浜中章子，山下悦子(1998). 慢性関節リウマチ患者の看護の展開. クリニカルスタディ5月増刊号.
11) 浜中章子，尾沼奈緒美，松岡広子，山本裕子(1998). 慢性関節リウマチ患者のリハビリテーション看護. 看護技術，44 (10).
12) 八田かずよ(1998). ブレインナーシング特別座談会，治療の変化に伴う看護のこれから前編. ブレインナーシング，5.
13) 八田かずよ(1998). ブレインナーシング特別座談会，治療の変化に伴う看護のこれから後編. ブレインナーシング，6.
14) 越村利恵(1998). 経腸栄養カテーテルの管理法. 消化器外科ナーシング，3 (5).
15) 小関真紀，三木佐登美(1998). 食道癌術後の循環器合併症とせん妄を併発した患者の看護. 消化器外科ナーシング，3 (12).
16) 児嶋真弓，里村節子(1998). 非定型精神病を合併した双胎妊婦のケア. 助産婦雑誌，7.
17) 長岡淳子，里村節子(1998). 再生不良性貧血合併妊婦の治療とケア. 助産婦雑誌，5.
18) 田中敏子，里村節子(1998). 急性膵炎、肺炎、麻痺性イレウス、心外膜炎産婦の治療とケア. 助産婦雑誌，4.
19) 岩崎朋之(1998). 人工呼吸の種類とその特徴. オペナーシング，春季増刊号.
20) 丸橋佐和子，岡本鈴江，河野総江(1998). クリティカルケアハンドブック 体位変換. 看護技術，旧増刊号.
21) 東村昌代，藤野博美，藤本春美，大野ゆう子，辻聡子，(1998). 甲状腺疾患における術後創傷管理と看護介入の評価. 第29回日本看護学会論文集 看護総合.
22) 三村美智子(1998). 緊急手術に対する手術室の対応の実際. オペナーシング，秋季増刊号.
23) 塚田なおみ(1998). 中耳炎の手術、その他の耳の手術. ナーシングプラクティス，文光堂，26-33.
24) 千賀ゆかり(1998). 音声外科手術. ナーシングプラクティス，文光堂，58-60.
25) 藤川博子(1998). 耳鼻科手術、内視鏡下副鼻腔手術. ナーシングプラクティス，文光堂，34-40.
26) 水谷綾子(1998). 耳鼻咽喉科外来総論 外来受付から診察室

まで 診療の介助 外来検査と診断. ナーシングプラクティス, 文光堂, 2-11.
27) 鍋谷佳子(1998). ユニバーサルプレコーション実践マニュアル.

学会発表

1) 小山田浩子, 原口範子, 軸丸清子, 田原正浩, 米田幸保, 中辻友希(1998). 思春期外来の初期ケアー情報収集と看護面談ー. 第17回日本思春期学会.
2) 原口範子, 小山田浩子, 軸丸清子(1998). 思春期外来における初期ケアの一考察ー事例の心の経過を巡って. ー第39回日本母性衛生学会.
3) 東村昌代, 藤野博美, 辻聡子, 藤本春美, 大野ゆう子(1998). 甲状腺疾患における術後創傷管理プロトコルと看護介入マニュアル作成と実施について. 第29回日本看護学会看護総合.
4) 東村昌代, 藤野博美, 藤本春美, 辻聡子, 大野ゆう子(1998). 甲状腺疾患における創傷管理のフローチャート作成と看護支援の効果. 第18回日本看護科学学会学術集会.
5) 辻聡子, 大野ゆう子, 東村昌代, 藤野博美, 藤本春美 (1998). 甲状腺術後創傷管理法の患者自己選択ガイドラインの検討. 第18回日本看護科学学会学術集会.
6) 小寺郁子, 峰雪千穂, 鍵谷真弓(1998). 意識障害患者の看護過程を通して行った2年目看護婦の臨床教育についての一考察. 第25回日本脳神経外科看護研究会.
7) 阿曽洋子, 上原ます子, 八田かずよ, 高田喜代子(1998). 褥創患者に対する看護ケア (1) 病院における現在と10年前の比較. 第18回日本看護科学学会学術集会.
8) 上原ます子, 阿曽洋子, 八田かずよ(1998). 褥創患者に対する看護ケア (2) 地域における予防ケアの現状と問題. 第18回日本看護科学学会学術集会.
9) 大河原幸, 小松原咲子, 大坂典子(1998). 転院時における患者家族のニーズの検討. 第51回日本救急医学会近畿地方会.
10) 前川哲(1998). 低体温療法における目標体温の維持方法. 第26回日本救急医学会総会看護部会.
11) 安延真由美, 京力深穂(1998). 回腸瘻修復術後にし開を合併した創傷の管理. 第12回日本小児ストーマ研究会.
12) 上田たつえ, 大山泉, 江島仁子, 大汐史代, 入澤みち子, 吉岡キヨ子, 末原紀美代(1998). 母体搬送看護情報提供書の活用状況と提供書の改訂. 第39回日本母性衛生学会.
13) 川上由香, 末澤廣子, 佐藤美代子, 堀井亜希子, 田中寿江(1998). 糖尿病教室におけるグループディスカッションの機能ーセルフヘルプグループ機能とモデリング. 第29回日本看護学会 成人看護Ⅱ.
14) 馬場環, 山中登喜子, 安藤昌代, 久米弥寿子, 小笠原知枝(1998). 末期癌患者の疼痛管理と緩和ケアに対する妨害因子ー大学病院における医師および看護婦の認識に基づく分析ー. 第29回日本看護学会 成人看護Ⅱ.
15) 吉本菜津子, 大野ゆう子, 辻聡子, 矢野忠, 三浦早苗, 柿澤満絵(1998). 高校生の進路別学年別心身健康度の比較. 第57回日本公衆衛生学会.
16) 館村卓, 野原幹司, 辻仲利政, 青木越子, 藤本春美, 安井洋子, 熊代千鶴恵(1998). 食道癌術後患者における摂食機能回復のためのチームアプローチ. 第4回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会.
17) 大野ゆう子, 稲邑清也, 井上俊彦, 井上武宏, 門田守人, 左近腎人, 安藤邦子, 藤本春美, 坂藤昌子, 原田一, 辻聡子, 笹井端子, 三浦早苗, 中村基子, 武田裕(1998). タイムスタディに基づく医療費原価試算の試み 第1報 病棟多職種職員および患者のタイムスタディ結果. 第18回医療情報学連合大会.

院内看護研究発表

1) 山本裕子(1998.1.8). ハローベスト装着患者の日常生活における障害と看護援助 (整形外科).
2) 伊藤亜紀(1998. 1.8). 震災後いきがいを喪失している独居老人へのかかわりについて (第四内科).
3) 大野温代(1998.2.12). エアーマット使用と20° ヘッドアップ体位併用による心臓カテーテル検査後の苦痛緩和を試みて (第三内科).
4) 高岡智子(1998.2.12). 悪性腫瘍で予後不良の病状説明を受けた患者の看護についての一考察 (放射線科麻酔科).
5) 古本典子(1998.6.11). 正常褥婦にとって必要な退院指導の検討 (分娩育児部).
6) 清水友紀子(1998.6.11). 看護婦のストレスについての比較検討 (第一外科).
7) 瓦田陽子(1998.7.9). 肝動脈塞栓術 (TAE) 時の看護実践活動の検討 (放射線部).
8) 福田久美(1998.7.9). 消化器疾患手術患者における禁煙指導 (第二外科).
9) 山口晃生(1998.8.6). 看護者が強い否定的感情を抱いた境界型人格障害患者への関わりの変遷 (神経精神科).
10) 坂本由紀(1998.8.6). ステロイド外用療法を行っている患者の対処行動調査 (皮膚科).
11) 藤村律子(1998.9.10). 開心術患者における褥創発生要因の調査 (集中治療部).
12) 原口美保(1998.9.10). 人工内耳埋め込み術を受けた患者について一考察ー失聴期間で分けたアンケート結果をもとにー (耳鼻咽喉科).
13) 有年真知子(1998.10.8). アロマテラピーによる伏臥位患者の睡眠への援助の検討 (眼科).
14) 井上久子(1998.10.8). 婦人科における腹腔鏡下手術後の肩痛に対する緩和方法の一考察 (産婦人科).
15) 家平裕三子(1998.11.12). 不安の軽減と早期離床に向けての術前オリエンテーション用紙の改善 (外科共通).
16) 榎本雅枝(1998.11.12). TUR後の陰部ケアの検討 (泌尿器科).
17) 佐々木美恵(1998.12.10). 玩具を用いた幼児の術前呼吸訓練の導入 (小児外科).
18) 土本美枝子(1998.12.10). 入院が長期化した患者の退院計画についの一考察 (脳神経外科).